

## 9月議会一般質問

第1問「安曇野が誇るわさびの振興について」、第2問「たくましい安曇野の子どもを育む学校給食事業について」第3問「新市立博物館構想の検討状況は」を取り上げました。



安曇野市の花 わさびの花

### 1. 「安曇野が誇るわさびの振興について」

**安曇野のわさびの位置付けは。**

(市長)市の花である安曇野のわさびを後世まで守り、国内外に発信したい。

**わさびの振興策は。**

(農林部長)→銀座 NAGANO でのイベント、海外プロモーションなどを行なっている。今後、関係者が協働して新たな振興策を検討していく必要がある。

**安曇野産わさびのブランド登録は。**

(農林部長)関係者の総意で進めるべきと捉えている。

**観光における効果はどうか。**

(農林部長)たいへん重要な観光資源である。

### 2. 「たくましい安曇野の子どもを育む学校給食事業について」

**市長の見解は。**

(市長)食育と地産地消の推進を公約に掲げている。給食を教育の一環と捉え安曇野型食育を構築していく。

**学校給食における地場産物の使用率は。**

(教育部長)R3 年度事務事業評価における各給食センターの地産地消率(市内産・県内産合計)は、年2回のサンプル値であるが、北部 46%、堀金 29%、中部 31%、南部 27%となっている。

**サンプル値でなく、データ収集の改善をすべきでは。**

(教育部長)集計方法、内容、時期、体制を含めて対策検討する。

**地産地消推進は生産者支援にもなる。目標値を掲げて食材の市内産率を高めてはどうか。**

(農林部長)給食センターは食材の安定供給と出荷時期の調整の要望がある。情報共有し、地元産農産物の使用率向上を図りたい。

**品質向上のため、研究機関の設立はどうか。**

(農林部長)苗の育成など課題を整理し、県の野菜花き試験場に相談し対策する。

**水が湧かないなどの課題へ土地改良対策は。**

(農林部長)他地域の湧水への影響を危惧する声もあり難しい。地権者の同意や事業経費の地元負担、地域の理解醸成が必要である。

**振興を図るため、専門部署を設置してはどうか。**

(農林部長)限られた人員の中では難しい。専門部署は設置せず現体制で進めていく。

**有機農産物の使用についての考えは。**

(農林部長)いまは、価格と安定供給の面から難しい。

**レシピ公募や、友好都市へ安曇野産物とセットでレシピを紹介するなど本市らしい取組をしては。**

(教育部長)月一度「安曇野の日」を設定したり、地域の伝統食や、新宿中村屋カレー、わさびコロッケ、りんごナポリタン等、工夫した提供をしている。献立表に作り方を紹介し家庭に配布している。農業支援や移住促進、友好都市交流などの様々な施策に活用できるよう、関係係局にも情報提供し、連携して進める。



←地元の食材を使った姉妹都市のあるオーストラリアメニューの給食

### 3. 「新市博物館構想の検討状況は」

平成 27 年に策定された新博物館構想の検討状況と課題は。

(教育部長)財源の確保、候補地の選定、新市立博物館としてメインに掲げるべきテーマの検討等が課題。収蔵施設も不足している。博物館構想の実現には市民の理解が不可欠だ。

**安曇野ならではのテーマ設定は重要と考えるがどのようにすすめていくのか。市として考える支援策の具体的な内容は。**

(市長)「人」にスポットを当てて、人の営みと安曇野の発展をテーマにするなど、検討を進めては

どうかと、個人的に考える。個人記念館が多数あり、県内でも類を見ない。

**博物館構想に関する市長の考える課題は。**

(市長)財源と場所。有識者に集まっていただき、もう一回仕切らないと前へ進めない。市民、市外からの来訪者を呼び込むので、相当きちんとした構想とテーマ性をもったものにしなければならない。

**具体的な建設計画を策定する時期では。**

(市長)そろそろきちんと立ち上げるべき。事務方と相談しないといけない。

※皆さまからのご意見を市政へおつなぎすべく、精力的に一般質問でも取り上げております。

## 活動ピックアップ～パリテカフェ@信州 vol.5 開催～

### 新知事への要望「長野県！もっと〇〇だったら良いのに！」を開催しました

長野県知事選投票日の8月7日(日)、パリテカフェ@信州 vol.5 をオンライン開催しました。

今回は、上智大学法学部教授で政治学が専門の三浦まり先生に、「変化を起こせ！ジェンダーギャップ指数 116 位の日本に必要なことは」というテーマで講演いただきました。この 20 年間、世界でジェンダーギャップを克服するため社会変革(イノベーション)が進む、という潮流があったのに、日本ではジェンダーギャップを放置して変化に乗り遅れた結果、経済は停滞し、産業界・教育界でイノベーションが生まれず、少子化対策などの社会課題が解消されない、といった多くの弊害が出ています。

また、47 都道府県別の分析で、長野県は、「意思決定における女性の少なさ」に大きな課題があることがわかりました。フルタイムの男女賃金格差は 37 位、女性社長数は 41 位、民間企業の女性管理職数は 38 位、小学校の女性校長数 35 位、県の女性管理職数 38 位(市町村では 44 位)などです。

また、グループに分かれ、日ごろ感じている疑問や悩みを出し合い、「長野県！もっと〇〇だったら良いのに！」のアイデアを語り合い、最後はグループごとの発表により全体交流を行いました。

いただいたご意見は、後日、阿部守一長野県知事に直接要望する予定です。今後も皆さんがつながり語り合える場をつくり、課題を具体的に解決していけるような活動を展開したいと思います。



上智大学教授 三浦まり先生



オンライン参加の皆さん